

研究課題名：DPC データを用いた肝移植を要する急性肝不全における術前管理と予後に関する研究に関する情報公開

1. 研究の対象

2014年4月1日～2018年3月31日に全国の脳死肝移植登録施設に急性肝不全で入院された方

2. 研究目的・方法・研究期間

急性肝不全の患者は全国で年間400例ほどですが、移植が必要になるほど重症な方の予後は不良です。日本では脳死肝移植の症例数が欧米と比較して少なく、移植待機期間も長い
ため、長期の術前管理を要することもあります。その期間における適切な治療管理については殆どわかっていません。本研究では厚生労働省より日本国内の脳死肝移植登録施設に観察期間内に入院した急性肝不全の症例に関するDPC(診断群分類別包括評価)の匿名化されたデータの提供を受け、解析をすることで、投与薬剤や治療転機等の関連性を調査します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病名、並存症、主従治療室入室期間、入院期間、使用薬剤、手術、治療転機

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

照会先連絡先：名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学分野

名古屋市昭和区鶴舞町 65

(052) 744-2659

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科・救急集中治療医学分野

助教・春日井大介

名古屋市昭和区鶴舞町 65